

きょう土を 開く

(1) 厚南の開作

厚東川下流の厚南地区には、広い平地が続いています。この平地はむかしの人々が長い時間をかけて海を陸地にかえたものです。

人々は、何のためにこのような広い土地を作ったのでしょうか。



↑厚南の開作(2003年の様子)

開作とはどんな意味なのでしょう。

海をうめ立てて土地にすることをかんたくとはいいますが、江戸時代、山口県をおさめていた毛利藩はこれを開作とよんでいました。

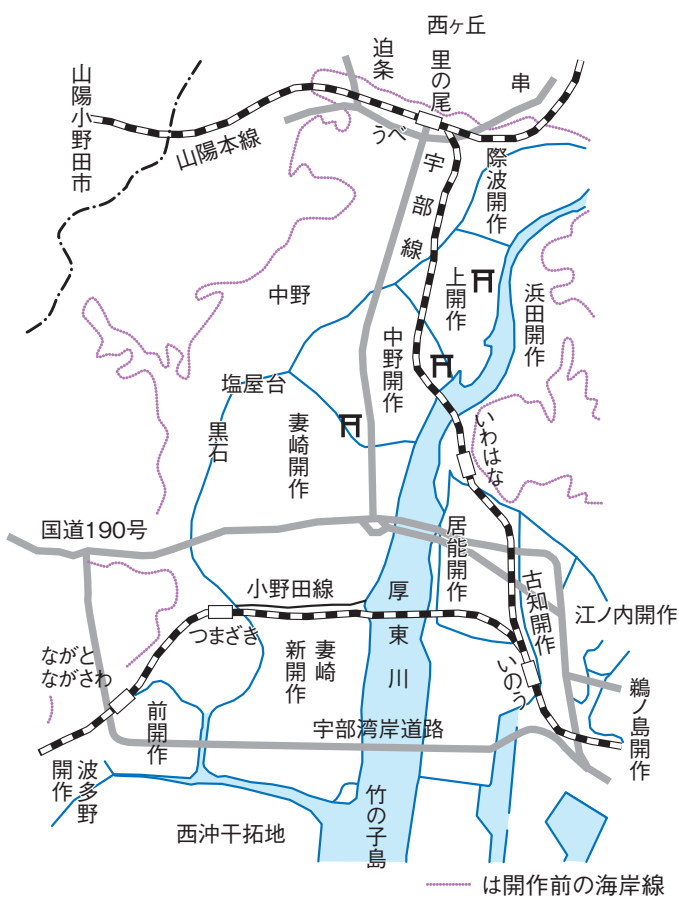
開作は、いつごろから、どこで^{おこな}行われたのでしょうか。



やってみよう



- ①開作される前の^{かいがんせん}海岸線を青でなぞってみましょう。
- ②開作べつに色をぬりましょう。



①広がってきた厚南の開作

戦国時代	1521	きわなみ 際波開作
	1527	際波沖開作
江戸時代(毛利氏)	1690	え うち 江ノ内開作
	1693	う 鵜ノ島開作
	1699	はまだ 浜田開作
	1782	かみ 上開作
	1787	中野開作
	1789	こち(そと) 古地(外)開作
	1792	ごぶいく 御撫育用水
	1817	つまざき 妻崎開作
	1845	まえ 前開作
	1857	いのう 居能開作
	1859	妻崎新開作(竹の子島がりくつづきになる。)
	明治元年	はたの 波多野開作

①開作年表

昔の人たちは、開作にどんな願いをもっていたんだろう。



今の宇部^{えき}駅のあたりは、むかしはどんなようすだったのでしょうか。

開作は、どのようにして行われたのでしょうか。



資料提供/モリ・アート

厚東川の河口には、たくさんの土砂が運ばれ、ひがたができていました。そのひがたのまわりに、たくさんの石をしずめ、その上に石がきを組み、土のうをつんで、ていぼうをきずきました。

むかしの道具



もっこ



じょれん



四人づき

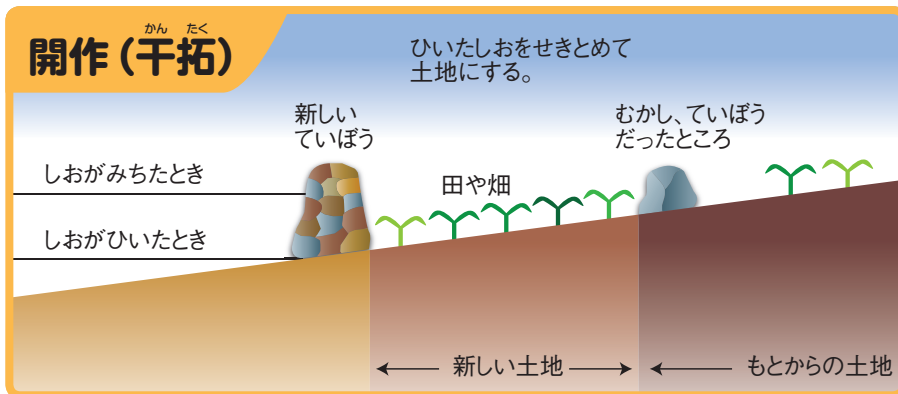
きょう土資料館の人の話



近くの農家の人たちは、工事の手伝いにでなければなりません。なので、ていぼうをつくる工事は、冬に行いました。

ていぼうの石垣の石は、近くの山や竹の子島、遠くの秋穂の方からも船で運びました。

今のように、進んだ道具や機械がなかったので、ていぼうができ上がるまでに、多くの人でがかりました。



①むかしのていぼうあと

開作された土地は、どのように利用されたのでしょうか。

むかしの日本は、米がどれだけとれるかということで、地いきのゆたかさはかっていました。

ぜい金もおもに、米でおさめていました。



①厚南の水田

毛利藩は、ゆたかな藩にするため

に、米・塩・和紙・ろうの生産を高めることに力を注ぎました。

(四白政策) そのため、新田の開発につとめ、厚南にも800町歩 (約800ヘクタール) という水田ができたのです。こうして、長い年月をかけて開作された厚南平野は、毛利藩の穀倉地帯として知られていました。

工事が終わると、ていぼうがくずれて海の水が入ってくることをおそれた人々は、そこにお宮をたて、水害などのぎせい者の霊をなぐさめるとともに、農業が栄えるようにいのりました。



①妻崎開作の守護神 妻崎神社

(2) 御撫育用水路

米つくりにかかせない水は、どこから得たのでしょうか。

際波沖開作ができたころは、西ヶ丘のため池の水をひいていました。ところが、中野開作ができると、雨水やため池の水では足りなくなりました。

そこで、1788年に、毛利藩の撫育局が厚東川から水をひくことを考え、五田ヶ瀬にせきを作り、用水路の工事を始めました。

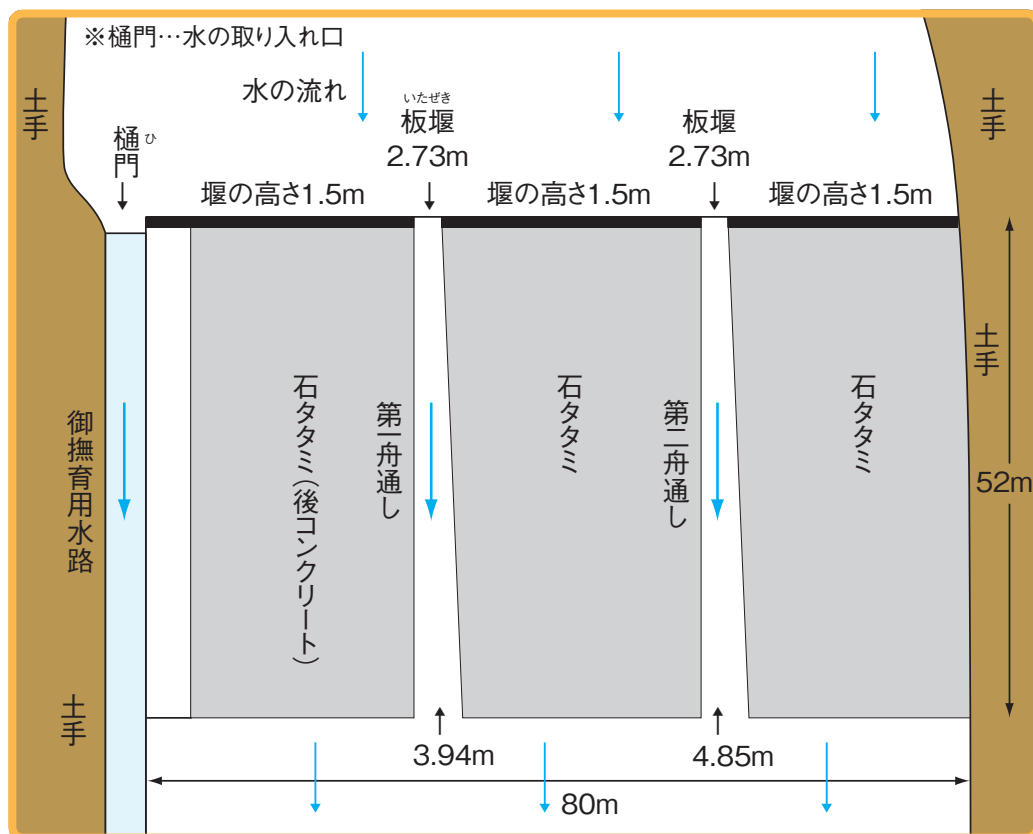
キーワード 「撫育局」

かいせつ 撫育局とは、萩藩毛利氏の財政担当部局の一つ。製塩などの殖産興業を行った組織。※ここではおもに新田開発を行いました。

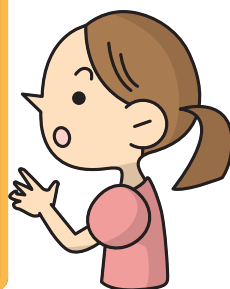


御撫育用水路略図

なぜ、^{ご た が せ}五田ヶ瀬にせきをつくり、そこから水をひいたのでしょう。



どうして、遠いところからみずをひいたのかな。



①もとの五田ヶ瀬のせき略図(上から見た図)^{りやくず}



②今の五田ヶ瀬のせき(取り入れ口)



③記念ひと樋門^{ひもん}

ていほう
堤防の中を通る水路のことを樋管^{ひかん}といって、その入口を樋門^{ひもん}と呼びます。



用水路をつくるのに、どんな苦^{くろ}勞^うがあったのでしょうか。

工事の計画は、毛利藩の撫育局がたてましたが、じっさいの工事は、地いきの農家の人たちが行いました。工事といっても、今のよ^きうな機^{かい}械^いなどはありません。土をほるのも、ほり出した土を運ぶのも、すべて人の力ですすめられました。

水路には、ひとつひとつ石をつみ重^{かさ}ねて、水がもれないようにしました。とちゅうの広瀬^{ひろせ}台地では、たがねで岩ばんをくりぬいて、トンネルをほりました。中野開作まで水をひくのに、およそ5年かかりました。



やってみよう

- 色をぬりましょう。



すごく時間のかかる作ぎょうだったんだね。



① 辰^{たつ}の口^{くち}ずい道^{みち}あと

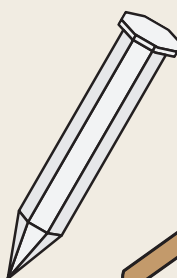
どうやって使うのかな。



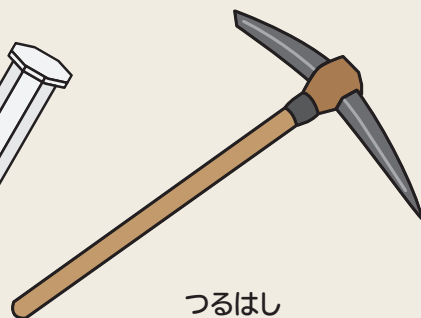
むかしの道具



げんのう



たがね



つるはし

なぜ、用水路の改修が必要だったのでしょうか。

用水路は、石組みやしがらみ（竹で作ったさく）の外側を土^{がわ}のい^どでかためただけだったので、改修工事にとりかかりました。1932年（昭和7年）から6年間かかって、いた^{なお}んだ水路をコンクリートで作り直しました。その時、広瀬台地付近では新しいトンネルをつくって水路を短^{みじか}くしました。



用水路の改修で、人々のくらはどのように変わったのかな。



昭和不い道

農家の人の話

御撫育用水路は、雨が多くても、少なくても水門を調整して、必要な量の水を流すことができるため、農家の人たちにとってなくてはならないものです。



改修記念のひ

校区の用水路やため池についても調べてみましょう。

(3) 常盤池

今からおよそ300年前に、当時、宇部をおさめていた福原氏(毛利氏の^{かろう}家老)のけらい^{むくなしごんざえもんとしひら}棕梨権左衛門俊平がさしずして、2年がかりでできたため池です。

俊平は、小高い土地の間にある広くて長い谷を見つけ、その一番せまい所に土手(本^{ほん}土手^{どて})をきずいて、まわりの台地から流れ出る水が、自然^{しぜん}にたまるようにしました。

このようにして、野中^{のなか}、則貞^{のりさだ}、草江^{くさえ}、梶返^{かじがえし}など400ヘクタールもの広い土地で米がとれるようになりました。



常盤池

(4) 川越の噴水 (駒の頭)



二俣瀬の木田は、厚東川よりも高いところにあるので、厚東川の水を使うことができず、むかしはあれ地のままでした。

今からおよそ 600 年前、藤本五左衛門は、なんとかしてこのあたりをゆたかな田にしたいと考えました。

そこで、近くの甲山川を上流でせきとめ、その水を厚東川の岸までひいて、そこからは、木のくだを使い川底を通して、噴水のしくみで向こう岸にふき出させました。

こうして、あれていた木田のあたりも、米がとれるようになり、今も水田の約3分の1は、この用水で米を作っています。

水害が多かった船木では、どのような工夫をして、洪水を防いだのでしょうか。

今からおよそ120年前の船木を流れる有帆川は、西口の布目橋（今の船木大橋～橋の高さも今の半分）から指月を通過して大野の瑞松庵の下で淵（川などの水が深く、よどんでいるところ）となり、新川まで約1.5km流れていました。毎年のように田畑は、洪水にあらされて、市街地の人家も水びたしになり、このあたりの人々はこまっていました。

明治5年、改修奉行の中野荒次（萩の人）が治水工事を受け持ち、茶屋の岡治助が工事を監督しました。水田だった所（第二布目橋付近から大野橋あたり）を多くの農民の手で茶屋から新川にほりぬいて、約400mにちぢめ、水害を減らすよう努めました。

その後、新川という集落ができ、酒屋、菓子屋、八百屋もできました。

洪水がなくなったから、人が住みやすくなって、新しい集落ができたんだね。

